

2022年9月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 9月えんだより

「あるものは百倍にもなった。」(マルコによる福音書第4章1〜9節)

暦の上では秋ですが、まだまだ暑い日が続きます。酷暑を過ごすのは体に堪えますが、感染症に気を配る日々も重なり、心も身体も疲れが溜まっていませんか。涼しい風が吹く季節が早く来てくれることを願います。

さて、今月は、イエスが語る例え話について紐解きたいと思います。「農夫が、種を蒔き、道端に落ちた粒は鳥が食べ、岩の上に落ちた粒や茨の中に落ちた粒は、結局実らなかつた。又良い土地に落ちた粒は、芽生え、育ち、実を結び、あるものは三十倍、六十倍、百倍にもなった。」と言う聖句です。真意を読み取るのはとても難しいです。農夫はイエス、種はイエスのみ言葉、土地は私、と捉えると何となくイメージが湧くかもしれません。

喜びや楽しみ、悲しみや辛い時など、様々な折に触れ、感謝や共感、分かち合い等、共に生きるために大切な思いや姿勢を確認することがあります。特に自分に降りかかった困難に直面しますと、その時には、神様に祈り、自身を省み、解決を望むことがあるのではないのでしょうか。しかしながら、事が解決しますと、人の心は無関心や岩のように頑なに心を閉ざす場合があります、どんな言葉や思いも信じ続けることができず、疑念に苛まれ、自責の念に駆られる時もあります。

子ども達を育む時にも同じような場面に遭遇します。日々の食前の祈りは、心を静かにし、目の前にあるご飯は、神様からの私たちへの恵みであり、多くの方々の思いや手により、与えられていることの感謝を神様に伝えて食します。しかし、一生懸命に遊んだ子ども達は、空腹に待ちきれず、お祈りどころか、早く食べたい思いに駆られることは常であります。喧嘩をした時に注意をされた時には「悪いことをしたな、どんな気持ちかな？」と思いを巡らすことはあっても、常に相手の気持ちになることは難しく、ついつい衝突することは子ども達の育ちに欠かせないことでもあります。人が育つことは、人と人とが交じり合うことでもありますので、必ずそうした場面に遭遇します。

イエスは、色々な場面で、神様のみ言葉を伝えられましたが、全てが実を結んだわけではないと思います。道端に落ちて、鳥に食べられた粒のように、又茨に覆われた中に落ちた粒のように実を結ばないことも多々あったというのです。しかし、種を蒔き続けることにより、いつか実を結ぶ希望をもつことの大切さを教えられます。子ども達の未来を信じて希望抱き、語り続けることの意義と一人一人は蒔かれた地で根を張って生き抜いていくことが赦されているのです。

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

9月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	あそぼう	いっしょに
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 生活の場を広げ、いろいろな遊びを試してみる。 * 保育者や友だちと共に体を動かす喜びを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 平和を考え、願い、共に祈る。 * 友だちと共にいることを喜び、体を十分に動かして遊ぶことを喜ぶ。 * 新しい発想や意欲をもって試してみる。
讚美歌	どんどこどんどこ こども改 106	どんどこどんどこ こども改 106